

プログラム名 4(2) 『補聴器について』

生活目標 補聴器を活用して、自分の能力を高めましょう

目的・効果 補聴器継続装用率向上／活動性の向上

所用時間	活用方法	機能制限	運動姿勢	必要物品
10分	講話・勉強会			資料

注意点など

1. 補聴器について説明

- 音は耳で聞くが、その音を「聞き取る」のは「脳」。
- 脳は、必要な音だけを拾い、不要と判断した音は気にならないように抑える力を持っている。
- 音が聞こえない状態が長く続いてから補聴器を試すと、脳が雑音も会話の音声も同じように拾ってしまい、補聴器をつけるとうるさく感じてしまう。
- 脳を音が「聞こえる」状況に慣らしていく必要がある。補聴器を装用するということは、脳に聴覚刺激を与えて脳をトレーニングすることにもなる。
- 補聴器は精密機械。適切な調整と使いこなすまでの慣れと定期的なメンテナンスが必要。

2. 補聴器導入の流れと選ぶポイントについて説明

- ① 診断
 - ・ 聞こえが悪くなったなと感じたら、まず耳鼻科で診断。
 - ・ 聴力検査などから補聴器が必要か診断してもらう。
 - ・ 耳鼻科医の中でもさらに補聴器に特化した補聴器相談医もいる。日本耳鼻咽喉科学会ホームページに名簿がある。
- ② 相談
 - ・ 耳鼻科に出張に来る補聴器販売店や認定補聴器専門店で相談。
 - ・ 認定補聴器専門店は、公益財団法人テクノエイド協会のホームページで紹介されている。
 - ・ 現在どんなことに困っているか、どういう音が聞こえないかなど、聞こえの状態や使用する目的を伝えるとともに、不安や疑問も相談する。
- ③ 試聴
 - ・ 補聴器は、使う人の聞こえの状態、聞こえ方の好み、使用目的などに合わせて緻密に調整・フィッティングする。
 - ・ 納得いくまで根気よく試聴する。
- ④ 調整
 - ・ 調整した補聴器を実際に日常場面で試聴して微調整していく。
 - ・ 様々な場所・場面で試聴してみる。
 - ・ 補聴器をつけても初めからはっきり聞こえるわけではない。
 - ・ 耳(脳)を慣らしていくのに数週間から長いと3か月以上の期間が必要。

プログラム名 4(2) 『補聴器について』(続き)

⑤ 購入

- ・ 自分の気に入った聞こえを手に入れられるよう補聴器をフィッティングしてもらえたら購入。
- ・ 補聴器は身体障害者手帳を所持している場合、公的支援制度が使える。

⑥ フォローアップ

- ・ 補聴器は、購入後も実生活での聞こえや環境による影響を確かめながら、さらに微調整をして仕上げる。
- ・ 定期的にメンテナンスし、気になることや不具合をその都度相談できるかなどを事前に確認しておく。

補聴器について

別紙の「補聴器購入の流れと選ぶポイント」で、補聴器について知たしましょう。補聴器は、精密機械です。正しいおさまりの慣れと定期的なメンテナンスが必要です。

「音は耳で聞えますが、その音を「聞き取る」のは「脳」です。私たちの脳は、必要な音だけを聞き、不要と判断した音は気にならないように抑える力を持っています。長い期間が聞こえない状態が続くと、脳が聴覚と体感の覚悟も同じように鈍ってしまい、補聴器をつけるとうるさく感じる場合があります。まずは、脳を音が「聞こえる」状態に慣らしていく必要があります。補聴器を装着するという事は、脳に聴覚刺激を与えて脳をトレーニングすることにもなります。



補聴器購入の流れと選ぶポイント

- ① 診断**
聞こえない原因のわからない場合は、耳鼻科で聴力検査などの聴覚検査(聴覚検査)を受けてもらいましょう。耳鼻科医の中からは補聴器は聴覚検査の結果に基づきます。耳鼻科医や聴覚検査センターに相談があります。[URL: www.earclinic.jp]
- ② 相談**
耳鼻科の診断と耳鼻科医からの聴覚検査の結果に基づいて、耳鼻科医や聴覚検査センターの専門医と相談し、補聴器の種類やメーカーの選び方を相談します。[URL: www.earclinic.jp]より詳しい情報が得られます。また、聴覚検査センターに相談し、補聴器の種類やメーカーの選び方を相談します。
- ③ 試着**
補聴器は、実際に使った状態、聞こえの感じ、使用感などを試着して実際の聞こえを確認します。試着は、補聴器の種類やメーカーの選び方を相談します。
- ④ 購入**
試着した補聴器が実際に使った状態を確認しています。補聴器の種類やメーカーの選び方を相談し、補聴器の種類やメーカーの選び方を相談します。補聴器の種類やメーカーの選び方を相談します。補聴器の種類やメーカーの選び方を相談します。
- ⑤ 購入**
自分の気に入った聞こえを手に入れられるよう補聴器をフィッティングしてもらえたら購入です。補聴器は精密機械です。正しいおさまりの慣れと定期的なメンテナンスが必要です。
- ⑥ フォローアップ**
補聴器は、購入後も実生活での聞こえや環境による影響を確かめながら、さらに微調整をして仕上げる。定期的にメンテナンスし、気になることや不具合をその都度相談できるかなどを事前に確認しておく。